

技術部報告集発刊に寄せて

技術部長 花岡 裕

この技術部報告集も第6号の刊行となりました。私の技術部長職も第二部夜間学部主事の消滅に伴い、残すところ2ヵ月ばかりとなりそうです。この間、技術部にとっても大きな変化がありました。私の力量不足を技術職員の皆様のご理解、御支援によりバックアップして頂き、何とか大任を果たせたかなと考えております。3年間に亘る御協力を本当に有難うございました。

さて、今年度の技術部活動について振り返ってみたいと思います。一つは、昨年度に発足した情報メディアセンターと機器分析センター設置に伴う技術職員の再配置問題が一応決着し、それぞれ新たな役割の下、業務が開始され、ようやく落ち着きを見せたことであります。またこの再配置を契機に、検討課題となっていた技術部組織の見直し案が加速され、近い内にセンター部門を新たに独立した系とし、全体として4系の組織に再編成される予定です。このことにより技術部の運営がより円滑に促進されると思います。また技術部運営規則を従前の技術部長裁定から本学の学内規則として正規化される予定です。

二つ目は、技術部運営に係わる予算増についてであります。かねてから年間30万円の運営費では、この報告集発行費が約半分以上を占め、技術部としての実質的な研究支援業務に支障をきたしている旨、窮状を訴え増額の要望を出しておりました。この度ようやく年間50万円の増額、合計80万円の運営予算が認められました。ただ今年度に関しては、認可時期が遅くなった関係上、一部備品の購入に回されますが、次年度以降は技官の技術向上のための研修や講習費補填のための増額理由となっておりますので、そのような趣旨の活動費に使われることを期待しております。

三つ目は、塩崎技官の大活躍が挙げられます。約1年半に及ぶ第38次南極越冬隊員としての重要な任務を終え、無事帰国、その活躍がマスコミにも取り上げられたこともあり、成果報告会が数多く行われたようであります。第一には技術部主催の報告会がB-333教室で行われ、体験者による質問も活発になされ、感動を与えてくれました。その後も国際交流室や市内の各団体からも講演依頼が舞い込み悲鳴をあげそうになったと聞いております。そのような前向きな活動が反映、評価された結果とも考えてますが、この1月からは、塩崎技官は本学では13人目の技術専門職員に格付けされました。その結果、文部大臣の訓令に基づく職制としては、本学関係では技術専門官4名、技術専門職員13名となりました。

その他、技術部会議の定例化を図り、出来るだけ風通しをよくすることを心懸けたこともありますが、積み残した懸案事項としては、他大学技術部との交流問題があります。この件に関しては私の力量不足で未だ、踏み出せない段階で留まらざるを得ませんでした。次期の技術部長に引き継ぎたいと考えております。

いずれにせよ、技術部組織および各構成員の努力が少しずつではありますが着実に実り始めており喜ばしく思います。今後とも、さらに風通しが良く質の高い技術部組織になりますことを念じ巻頭言とさせていただきます。